

論文審査の結果の要旨

2023年1月25日

申請者： 劉 旭傑

論文題目： 日中国際医療現場の実践的視点から見た

日本におけるメディカルツーリズムから医療国際化への進化

2023年1月21日(土)本学紀尾井町キャンパス3号棟302教室で実施された。最終口述試験等の結果を受け、博士論文審査委員会は、劉 旭傑氏が提出した。

論文題目『日中国際医療現場の実践的視点から見た日本におけるメディカルツーリズムから医療国際化への進化』に関して、その内容は博士(経営学)に相当するものであると評価した。評価理由は、次の通りである。

劉氏の長年のメディカルコーディネータとしての経歴及び体験から得られた知見から、標記論文は、中国の富裕層における日本の高度医療(心疾患・脳疾患・癌)に対するインバウンド需要の高い医療サービス(自由診療)を私的財と捉え、日本の医療ツーリズムへの実証的なデータを探索し、提言を行ったものである。特に実証的データとしてアンケート調査による“実態”調査は今後の医療ツーリズム研究における重要な第1次資料となるものと特にその価値が高く評価された点である。

一方、一部の委員から下記のような懸念が表明された。

劉氏は、その主張で「日本の高度医療サービスに対する中国人の医療ツーリズムへの需要は、日本の医療機関の国際医療産業化に資する」という趣旨を口述している。論文内容でも示唆されているが、彼の主張は、日本の医療資源の国際化ひいては医療産業の国際化が日中間で相互互惠的なWIN・WINの関係になると当該委員は理解し相互互惠的な関係が構築し得れば、確かに劉氏の主張に説得力があるとしている。しかし、一抹の不安又は危惧が日本側の国民にはあるとも述べている。日本国内の医療資源は、国民皆保険・国民の税金の各医療機関への配分を通じて蓄積されてきたものであり、たとえ自由診療を前提としても、高度医療には多額の日本国民の政府を通じた資金配分が行われている。国民皆保険がモラルハザードを引き起こしているが、同時に国際的な自由診療の場合、他国の富裕層などの国内医療資源の利用が国内の利用者からフリーライダーとの誤解を生むリスクがある。従って、日本の医療資源の国際化には、日本国内の医療資源を利用する他国の利用者が国内の医療資源を毀損しない、相互互惠的な関係にあることを、つまり、劉氏の言う医師と海外利用者との情報の非対称性だけでなく、海外利用者と国内利用者との情報の非対称性も解決することが重要であるとの指摘である。

上記の危惧に対して劉氏は承知しており、当該懸念に対して真摯に回答し、実践的課題として認識していた。このような懸念はあるものの、本論文の価値を損なうものではないと本委員会は判断した。

審査員(主査) 染谷 芳臣

審査員(副査) 袁 福之

審査員(副査) 酒向 浩二